

心の故郷はわがまちのシンボル・小牧山！ 信長の先進性に学ぶ多面体の文化都市づくり

なかのなおてる
中野直輝
小牧市長

小牧山が物語る小牧市の歴史的重要性

平成21年9月5日、愛知県小牧市において「第23回織田信長サミット」が開催された。同サミットは、戦国時代の「三英傑」の中でも戦国武将としてひとときわ優れた獨創性を発揮し、今も国民的な人気を誇る織田信長の足跡にゆかりがあると同時に、そのゆかりをまちづくりのバックボーンとして大切にしている全国の自治体が定期的集まり、開催しているもの（今回から名古屋市が新たに加盟し、現在は10市町で構成）。

今回のサミットでは「信長の先進性に学ぶ―小牧での四年間―」と題するサミット会議（記念講演は作家・荒俣宏氏による「信長は先進の文化人だった」および歴史シンポジウム「発掘調査から考える織田信長の小牧山城と城下の風景」など、さまざまなイベントが実施され、大盛況のうちに幕を閉じた。

の豊かな都市・小牧市のPRを積極的に行っていくつもりです」

現在も名神高速道路・東名高速道路・中央自動車道という、日本の高速交通網の中でも最重要と位置付けられる大幹線の集まる結節点であり、市域には県営名古屋空港まで擁する小牧市の交通の要衝ぶりは、決して偶然の産物ではない。

織田信長が乾坤一擲の勝負に挑んだ桶狭間の戦いの後、天下取りの第一歩としての美濃攻めを決意し、満を持して築城したのが小牧山城であったという事実。織田信長亡き後の天下の形勢を決める合戦の一つともなった小

それだけではない。灯ろう2000個による小牧山のライトアップ事業（社）小牧青年会議所主催の「小牧山ランドマークフェスタ」、NPO法人尾張小牧歴史文化振興会主催の「歴史探訪」、NPO法人こまき市民活動ネットワーク主催のプレイベント「織田信長サミットに向けた『こまき』のリリース講演」、愛知文教大学の協力による「連続歴史講座（計11回）」など、市民や事業者、大学などの積極的な参加による、充実したサブイベントの数々が目を引いた。

「織田信長が居城を築き、信長亡き後の小牧・長久手の戦いで織田信雄（信長の次男）・徳川家康連合軍が陣を敷いた小牧山は、まさに小牧市のシンボルの存在です。同時に市民にとっては四季折々の憩いの場でもあり、生まれ故郷の小牧市を離れて暮らす方々には心の故郷なのです」

そう語るのは中野直輝小牧市長である。中野市長はさらに続ける。「現在実施している第6次総合計画が目指す

小牧山がはぐくむ芸術・文化都市の素地

標高わずか86mでありながら、平坦な濃尾平野にぽっかりと浮かぶ大海の小島のような小牧山頂上部からは、四方八方が見渡せる。実際にその頂上に登ってみると、織田・豊臣・徳川という戦国武将「三英傑」が覇を競う舞台の一つとして小牧山が選ばれた理由が、自然に納得できる。前述した名神・東名・中央道という日本の代表的な高速道路の結節点が後世に形成されたのも、その地形的な特性によるのだ。

折しも今年（平成22年）は、小牧市の市制施行55周年であるとともに、昭和5年に尾張徳川家から小牧山が当時の小牧町に寄贈されて80年の節目にあたる。小牧市ではこれを記念するさまざまな事業を行うとともに、歴史と自然を調和させた小牧山の整備事業、さらに小牧山ならびに小牧市の歴史を核とする各種観光振興策、地域活性化のための文化事業などを計画している。

「尾張徳川家からの寄贈を受けるにあたっては、実は小牧山の現状を変更しないという約束事がありました。しかし、終戦後の混乱期に小牧山東麓の敷地内に小牧中学校が建設されたのを皮切りに、青年の家（研修施設）、歴史館（資料館）が建設され、小牧市役所までが建設されました。

当時としては仕方ない事情もあったわけ



将来都市像は「人と緑」がやく創造のまちですが、そのイメージの中心には、国指定史跡であると同時に市街地中央部に位置する、緑のランドマークとしての小牧山がしっかりと根を張っているのです。

今回のサミットを契機に、今後は新たに名古屋市、清須市と連携して、信長にゆかりの愛知県内の観光名所を巡る「織田信長ウォーキング」※などのイベントを開催し、歴史・文化

ですが、昭和50年代後半にこのことが市民の間で大きな議論的になり、平成4年には小牧市教育委員会から市長あてにまず小牧中学校移転の提案がありました。それに従って平成10年に小牧中学校を移転させました。さらに平成24年竣工に向け現在、新庁舎建設に取り組んでいるところ（中野市長）

小牧中学校の移転後、小牧市では史跡小牧山整備計画基本構想を策定。100年先をも視野に入れた保護・活用を目指し、歴史調査に基づいた原状回復を実施し、小牧山をシンボルに据えたまちづくりを行うことが、同基本構想の基本理念としてうたわれている。

前述したように小牧市では現在、第6次総合計画に基づくまちづくりが行われているわけだが、その核のひとつには小牧山整備計画



「第23回織田信長サミット」では信長の先進性をまちづくりに生かすディスカッションや市民参加イベントを開催

牧・長久手の戦いにおいて、織田・徳川連合軍が羽柴秀吉軍を食い止めることができたのは、いち早く小牧山に陣を敷いたからだといえる事実。これらの史実が物語るのは、日本の中央部に位置する肥沃で広大な濃尾平野を握ることが、天下統一の分け目とらえられていたということだろう。

※今年10月ごろ、信長の足跡を辿るウォーキングイベントを実施予定。



市街地の各所から遠望できる小牧山

◇防犯灯設置、防犯灯維持管理費の全額補助

◇美濃路エリアセーフティ連絡協議会へ加入(平成18年度)／一宮市、大垣市、羽島市との他市県をまたいだ高速道路使用の犯罪発生防止のため、広域情報交換の場としての協定を結ぶ。

◇市営自転車等駐車場に防犯カメラの設置(平成18年度)／名鉄小牧線6駅の自転車等駐車場に防犯カメラ21台設置。

◇安全安心まちづくり活動補助金の助成(平成17年度)／自主パトロール隊支援で最高20万円の補助(物資購入費など)。

◇防犯啓発用プレートの配布(平成18年度)／市内全戸に犯罪撲滅などをうたった啓発用防犯プレート配布。

◇市営自転車等駐車場に防犯カメラの設置(平成18年度)／名鉄小牧線6駅の自転車等駐車場に防犯カメラ21台設置。

◇防犯対策補助金の助成(平成16年度)／鍵の交換やセンサーライト設置など各世帯に最高1万円助成。

◇スパー防犯灯(緊急街頭通報装置)の設置(平成17年度)／警察につながる緊急通報装置3基を駅前設置。

◇安全安心まちづくり活動補助金の助成(平成17年度)／自主パトロール隊支援で最高20万円の補助(物資購入費など)。

◇防犯啓発用プレートの配布(平成18年度)／市内全戸に犯罪撲滅などをうたった啓発用防犯プレート配布。

◇市営自転車等駐車場に防犯カメラの設置(平成18年度)／名鉄小牧線6駅の自転車等駐車場に防犯カメラ21台設置。

◇防犯灯設置、防犯灯維持管理費の全額補助

◇美濃路エリアセーフティ連絡協議会へ加入(平成18年度)／一宮市、大垣市、羽島市との他市県をまたいだ高速道路使用の犯罪発生防止のため、広域情報交換の場としての協定を結ぶ。



市民に親しまれる中部フィルハーモニー交響楽団



バレーボールワールドカップやバスケットボールの世界大会も行われる「パークアリーナ小牧」

の基本理念がリンクしているといえるだろう。小牧市ならびに小牧市民にとっての小牧山の持つ象徴性、存在感の大きさが、ここでも如実に分かるのだ。

小牧山はまた、市内各所から遠望できる。まちの歴史的シンボルであり、心の故郷であり、憩いの場でもある緑豊かな小牧山を朝夕夕なに遠望する小牧市民。そのせいだろうか。わがまちの歴史への愛着と共に、芸術・文化を深く愛する市民気質ともいえるべき傾向が、小牧市では古くから醸成されてきたという。

印象派以降の西洋絵画、近代以降の日本人

芸術家による芸術作品を収蔵し、市民愛好者はもちろん全国からもリピーターが非常に多く訪れることで知られるメナード美術館(小牧市出身の実業家・野々川大介夫妻のコレクションが中心)は、その象徴的な存在だ。

また平成12年に小牧市交響楽団として生まれ、今年で結成10周年を迎えた現NPO法人中部フィルハーモニー交響楽団は、中部圏のみならず、今や全国的に知られるプロオーケストラとして成長している。今年5月に開催された「市制55周年記念事業第九演奏会」(小牧市市民会館)には、多くの市民が公募で参加し、非常に盛り上がったという。

「小牧市で生まれ育った中部フィルハーモニー交響楽団の存在は、市民の皆さんが日常的に、生のオーケストラ演奏に親しむ機会を提供してくれるという意味で非常に貴重です。歴史・文化都市としての小牧市の幅を広げるためにも、今後、第九演奏会のように、市民の音楽活動を大いに促進していきたいと思っています。

併せて人の心を豊かにし、地域への愛着や誇りをはぐくみ、心豊かなまちづくりの原動力となる市民文化の創造、多彩な市民文化活動を推進するために、近い将来、小牧市の将来を見据えた文化振興ビジョンを市民協働で策定したいと考えています(中野市長)

安全安心なまち、環境に配慮するまち実現への努力

交通の要衝である小牧市は多くの工業団地、

(平成19年度)／各地区の防犯灯設置・維持管理に関する費用の全額補助。

◇護身術の冊子の配布(平成20年度)／痴漢被害などの防止のため護身術教室を開催、さらに自宅学習用の冊子を配布。

◇安全安心なまちづくり市民決起大会の開催(平成21年度)／市民協働による防犯意識高揚のため、総決起集会を開催。

◇事業者防犯カメラ設置補助金の支出(平成22年度)／飲食店・物販店の駐車場を対象に防犯カメラ設置補助(最高50万円)。

◇夜間防犯巡回パトロール実施の委託(平成22年度)／自主防犯パトロールの及ばない深夜帯に関する、警備会社への委託。

これら矢継ぎ早に実施された施策の成果は、前述した通り、犯罪件数の激減に如実に表れている。犯罪は油断をすれば増える。だがツボを押さえた対策を綿密にかつ持続して行えば、確実に成果が上がることを、小牧市の事例は改めて証明しているといえる。

全世代を通じ官民一体で環境に配慮す



写真左はCNG(圧縮天然ガス)車のバン、右はバイオディーゼルエンジン搭載のゴミ収集車

企業団地が立地する産業都市として、また中部(名古屋)首都圏における衣食住のバランスに優れたベッドタウンとしても発展してきた。半面、交通の要衝であることが、あるいはマインナスに働いたかもしれないと思われる影響もあった。犯罪の増加である。

「小牧市はもとも犯罪件数のそれほど多い地域ではありませんでした。しかし、平成15年は前年の約1.5倍に当たる刑法犯罪(計6353件)が多発したのです。摘発された犯人の中には市外出身者も多数おり、彼らは高速道路を活用して市内に侵入し、犯行後高速道路を活用して逃走するなどの共通点の多いことが判明しました。犯罪はそれだけでは



市民協働で取り組む防犯活動で小牧市の犯罪数は激減

るまちづくりとして、小牧市では平成17年に「環境都市宣言」を行い、多彩な環境維持・保全事業を実施している。だが環境都市宣言の以前から、環境対策への取り組みは早かった。「地球温暖化対策の推進に関する法律」が平成10年に施行されたのを受け、翌11年には市の活動における環境負荷の低減を図るため、「小牧市環境率先行動計画」を策定。毎月第1水曜日を職員のマイカー通勤を自粛する「ノーカーデー」と定めたことを皮切りに、環境率先行動計画をこれまでに4回改定している。さらに、平成21年3月には市民・事業者・市が地球温暖化防止の取り組みを推進できるよう



環境意識を高揚させるイベントに引っ張りだこの小牧市の「ゆるキャラ」[エコリン]



今年1月に開催された「国際交流ふれあいフェスタ」には市内在住10カ国以上の方たちが参加

「自動車関連産業が集中している中部地方では、同様の人口構成を示す都市の例が少なくありませんが、小牧市は現在、多文化共生推進プラン策定に向けて、精神的に各方面との協議、会議などを重ねているところ。特に居住が10年、20年と長期にわたる方たちの家庭では現在、小牧市生まれ、小牧市育ちの外国籍の子どもたちが増えており、その就学支援は急務の一つといえます」(中野市長)

外国語(ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語)で作成した生活ガイドブックやマップの制作はもとより、窓口に通訳・相談員を配置したり、日本語初期教室を今春から開設している。さらに防災訓練にも外国人居住者の参加を促すなど、小牧市では外国人居住者をコミュニティの仲間として受け入れる方策をさまざまな形で試行錯誤している。

「これらは本来、国を挙げて行うべき事業ですが、実際に生活をしているのは私たちのまちであり、現実的な問題のほとんどは日常生活レベルで起こってきます。そういう意味で一番彼らに近い行政の窓口にいる者として、私たちは手をこまねいているわけにはいきません。できる限りの努力を続けていくつもりです」(中野市長)

子どもたちだけではない。外国人居住者も滞在期間が長期化するにつれ高齢者が増え始めるなど、外国人居住者に対処すべき窓口業務は、今やほぼ全面的に広がっています。

景気の長期低迷も手伝って、外国人居住者数の増減は今後、予測がつかない。だが考えてみれば、出世の初期過程で小牧山城を築いた織田信長は、貿易をはじめとする外国人

「小牧市地球温暖化対策地域推進計画」を策定している。

「これにつきましては温室効果ガス削減に積極的に取り組むとともに、従来に引き続き、住宅用太陽光発電システムなどを設置する市民へは助成を行っていくつもりです。同時に今後は公共施設にも太陽光発電システムを設置するための調査を積極的に進めていきたいと考えております」(中野市長)

また平成13年に認証取得したISO14001も現在まで順調に認証取得を更新

覚の母子健康手帳として今後、全国的に波及するのではないかと思われる。

印象的な出来事といえば、小牧市のまちを歩いていくうちに気づくのが、外国人居住者の多さである。小牧市内では現在、人口の5.5%程度にあたる約8500人の外国人居住者が生活している。自動車関連事業を中心に就労している人々が多く、過半数がブラジル人居住者だ。

「自動車関連産業が集中している中部地方では、同様の人口構成を示す都市の例が少なくありませんが、小牧市は現在、多文化共生推



ゴミ処理施設の余熱を活用した温水プール

しているほか、「こまき環境ISOネットワーク」も同年に設立。現在では約50の事業者が参加し、ISO会合を実施するとともに、環境保全研修会を定期的に実施している。さらには次代を担う子どもたちを対象に「光ヶ丘小学校地球温暖化対策地域協議会(光エコキッズ)」(「小木小学校地球温暖化対策地域協議会」(小牧小学校地球温暖化対策地域協議会(小牧エコキッズ))を結成。低年齢からの環境教育を積極的に実施している。

その他、小牧市レジ袋削減協議会(平成20年度に設置)がレジ袋の有料化を軸に省資源・廃棄物削減による循環型社会の形成を図るなど、多彩な環境維持・創造事業を実施して、それぞれに効果を上げている(レジ袋に関しては平成21年度の実績で、市内29店舗において91%のレジ袋平均辞退率を達成)。



子育て広場も併設し、絵本約2万4000冊の蔵書を誇る「えほん図書館」。子育てにやさしいまち小牧市ならではの施設

今回の小牧市取材ではほかにも印象的な事業や出来事にいくつも出会うことができた。中でも印象的な事業の一つは、小牧市方式ともいえるべき「親子健康手帳(母子健康手帳)」の存在だ。通常の母子健康手帳は、子どもの誕生前から就学までの成長記録を記す文字通りの「手帳」だが、小牧市の親子健康手帳はA5判のノートほどの大きさで、中学校卒業まで使える仕組みだ。しかも写真を貼るスペースや、成長ごとに両親がわが子に挿入されたメッセージを記す欄などがふんだんに挿入され、子どもが成長した暁には、親の愛情を感じることで「道しるべ」ともなるのだ。この親子健康手帳は現在、全国的な注目を集めており、新感



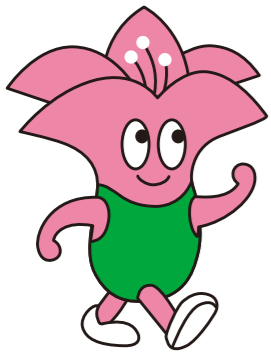
今年4月にオープンした老人福祉センター「小針の郷」は高齢者の健康増進・余暇・生きがい活動の中核施設



外国人労働者の定住化のカギをにぎる「日本語初期教室」

の国際的な経済活動や宗教活動に、最初に理解を示した天下人でもあった。

小牧市の地道な多文化共生に向けた事業がいつか実を結ぶとき、小牧市を故郷と考える外国人子弟が国際的に活躍する姿を想像するのは心楽しい。そして、彼らと共に小牧市で育った日本の若者たちが、彼らに触発される形で世界をまたに活動する時代がきたときにも、緑濃い小牧山はきっと「みんなの心の故郷」として意識され続けるのではないだろうか。そんな気がするのである。



小牧市マスコットキャラクター「こまき」。小牧市の花ツツジをモチーフにした元気で親しみやすい男の子

(取材・文 遠藤隆)